

1 国（地域）名：イギリス（スコットランド）

2 選挙権年齢や成人年齢

スコットランドは、1707年のイングランドとの統合以降、英国（連合王国）の一部であり、政府も議会も統合されていたが、1998年のスコットランド法の成立によって内政権を確立しており、スコットランド議会（一院制）や政府（内閣）等が設置され、英国議会や政府が留保している外交、国防、経済などの権限を除き、司法、警察、教育などの行政権限を有している¹⁾。スコットランド議会の選挙権、被選挙権は当初は英国議会と同じ18歳であったが、選挙権については2015年の法改正により16歳に引き下げられ²⁾、翌2016年に引き下げ後最初の選挙が行われた。なお、成人年齢については英国と同様18歳とされているが、取引行為などについてはスコットランドでは16歳から可能である³⁾。

2023年1月時点での英国議会ならびにスコットランド議会の選挙権年齢等は、表1の通りである。

表1 選挙権年齢（被選挙権年齢）と成人年齢

	英国議会	スコットランド議会（1998年スコットランド法）
(1) 選挙権年齢・法改正年	18歳（1969年）	16歳（2015年）
(2) 被選挙権年齢・法改正年	18歳（2006年）	18歳
(3) 成人年齢・法改正年	18歳（1969年）	18歳（取引行為は16歳から可能）（1991年）

3 社会系教科目の構造

(1) 学校教育制度⁴⁾

スコットランドは、英国内で独自の教育行政権限を有しており、独自の学校教育制度を設けている。学校制度は、Primary School（P1～P7）、Secondary School（S1～S6）、University（4years）等があるが、就学義務があるのはP1からS4までである。学校年度は8月開始であり、小学校への就学は学校年度の3月1日に満5歳になっている子どもである。したがって、P1は4～5歳児となるが、8月の学校年度開始時点で5歳に達していない子どもの保護者は、子どもが学校に行く準備ができていないと考える場合、小学校への入学を延期する権利がある。

(2) 教育課程の特質（日本との相違）

スコットランドの教育課程は、日本と比較して、よりコンピテンシーベースのものになっているとあってよく、地域や学校の特質、学習者の実態などに合わせて各学校等が具体的なカリキュラムを編成することが求められている。スコットランド政府は教育目標に基づく教育課程の基本的枠組みや必須の領域、評価方針などの大枠を示しており、日本のように学校種や学年ごとに教科等を指定して教育課程の構造を具体的に示すという形式をとっていない⁵⁾。

スコットランドの教育課程は、3歳から18歳までの教育課程全体の目標として掲げる4つの資質・能力（サクセスフル・ラーナーズ、自信に満ちた個人、責任ある市民、効果的な貢献者）を育成するため、「学習経験を組織する基本的な4つのコンテキスト」（カリキュラムエリアとサブジェクト、学際的な学習、コミュニティとしての学校の理念と生活、自己実現の機会）によって編成される。そのうち、カリキュラムエリアは、基本的な8つの領域（1．

Expressive arts 表現芸術、2. Health and wellbeing 健康とウェルビーイング、3. Languages 言語、4. Mathematics 数学、5. Religious and moral education 宗教的・道徳的教育、6. Sciences 理科、7. Social studies 社会科、8. Technologies テクノロジー)と補助的な5つの領域(9. Literacy and English リテラシーと英語、10. Community Learning and Development コミュニティの学習と開発、11. Community Resilience 地域社会の回復力、12. Gaelic Education ゲール語教育、13. Political Literacy 政治的リテラシー)が示されており、これらを軸に、各学校等が具体的な教科(subject)や学習活動を設定する形になっている。

(3) 社会系教科目の構造

教育課程編成の基本的な考え方や方法が日本と異なるため、教科目の構造を日本と同様のレベルで具体的に示すことは困難である。ただ、8つのカリキュラムエリアの一つに社会科(Social Studies)が設けられ、主な学習内容や学習活動、評価内容などが3歳から18歳までの15年間で5つのレベルに分ける形で示されており、これが15年間の教育課程におけるカリキュラムエリアとしての社会科の構造を示している⁶⁾。

このカリキュラムエリアの学習として、具体的に各学校で設定するものがサブジェクト(subject)と呼ばれるものである⁷⁾。スコットランドのサブジェクトは、日本の教育課程でいえば、教科というよりは、高等学校で教科の中に設定されている科目に近いものと捉える方が妥当であると思われる。実際に、各学校等では、社会科というカリキュラムエリアの学習としてどのサブジェクトを設定するかを決めて学校の教育課程を編成しているようである。日本でも高等学校は学習指導要領で決められている範囲内で各教科をどのような科目編成で履修させるかを決めて教育課程を編成しており、スコットランドでは学校種を限定せず、日本よりも柔軟な形でそのような教育課程編成が行われていると考えれば、理解しやすいのではないかと考えられる。

スコットランドの学校で、社会科というカリキュラムエリアのサブジェクトとして設定されているものとしては、歴史(History)、地理(Geography)、経済(Economic)、現代の研究(Modern Studies)、人々と社会(People and Society)、哲学(Philosophy) 社会学(Sociology)、宗教・道徳・哲学(Religious Moral and Philosophical Studies - RMPS)等がある⁸⁾。

4 公民系教科目の教育目標・教育内容(小中高の一貫性を観点に)

(1) 目標

カリキュラムエリアとしての社会科の目標は、以下のように説明されている¹⁰⁾。基本的には、社会に関する知識や技能を理解して身につけることを基盤としつつ、それらをもとに現実の社会について考えて判断し、行動することにまで結びつける事ができるようになることが目指されており、資質・能力を身につけた主体的な責任ある市民の育成につなげて行くことが目指されている。この点については、次節で示すコンピテンシー(資質・能力)と重要な関連がある。

◆社会科には、歴史的、地理的、社会的、政治的、経済的、ビジネス的な文脈における経験と成果が含まれる。子どもや若者にとって、自分が住んでいる場所や、家族やコミュニテ

イの遺産を理解することは重要である。社会科を通して、子どもや若者は、異なる時代、場所、状況の中で、自分たちの民族とそれを形作ってきたもの、他の人々とその価値観、そして自分たちの環境がどのように形成されてきたかを学ぶことで、世界に対する理解を深めていく。

◆若者たちは、人類の偉業について学び、社会の変化や紛争、環境問題を理解する。理解が深まれば、情報を得た上で責任ある市民として行動することで、出来事に影響を与えることができるようになる。

◆社会科を学ぶことで、子どもや若者は以下のことができるようになる。

□過去と現在の人間の活動と業績、政治的、社会的、環境的問題、そして自分の社会と他の社会を支える価値観について学ぶことで、世界に対する理解を深める。

□情報にアクセスし、分析し、利用することで、批判的思考の能力を養う。

□自分自身の信念と世界観を形成し、異なる価値観、信念、文化に対する理解を深める。異なった価値観、信念、文化に対する理解を深める。

□生涯学習のための確固とした基礎を築き、一部の人はさらに専門的な学習やキャリアのための基礎を築く。

◆社会科を学ぶことで、子どもや若者は以下のことが可能になる。

・スコットランドの歴史、遺産、文化への理解を深め、世界の中での自分の地域や国の遺産を評価すること。

・過去と現在の人類の活動と成果について学ぶことで、世界に対する理解を深める。

・自分の価値観、信念、文化、そして他者の価値観に対する理解を深める。

・批判的かつ自立的な思考を通じ、民主主義と市民権の原則に対する理解を深める。

・さまざまなタイプのソースや証拠を探索し、評価する。

・時間と場所の中で、時代、人、出来事を見つけ、探索し、結びつける方法を学ぶ。

・地元や遠く離れた場所の特徴や場所を見つけ、探索し、結びつける方法を学ぶ。

・進取の気性を高めるような活動を行う。

・企業を刺激し、ビジネスに影響を与える概念の理解を深める。

・生涯学習、さらに専門的な学習やキャリアのための確固たる基礎を築く。

(2) スタンダード or コンピテンシー

スコットランドのカリキュラムの基本理念と基本構造は、次のようなものとして説明されている¹¹⁾。スコットランドのすべての子どもと若者は、学習者の人生 (journey) の一環として、今日の世界に適応し、批判的に考え、活躍するために必要な知識、スキル、特性を身につける機会を得るために、3歳から18歳まで一貫したカリキュラムを経験する権利がある (義務教育は5歳から16歳の11年間であるが、カリキュラムは15年間のものとして示されている)。

そのような学習経験を通じて、スコットランドのカリキュラムが育成を目指すコンピテンシー (資質・能力) は、表2のような4項目が示されており、この4項目の資質・能力の育成について、8つのカリキュラムエリアがそれぞれどのようにその役割を果たすのかがカリキュラムエリアごとに示されている。表3は、カリキュラムエリアとしての社会科が育成を担う資質・能力の内容を示したものである。

表2 4つの資質・能力の項目

<input type="checkbox"/> サクセスフル・ラーナーズ (successful learners) としての資質・能力 <input type="checkbox"/> 自信に満ちた個人 (confident individuals) としての資質・能力 <input type="checkbox"/> 責任ある市民 (responsible citizens) としての資質・能力 <input type="checkbox"/> 効果的な貢献者 (effective contributors) としての資質・能力

表3 カリキュラムエリアとしての社会科が育成を担う資質・能力

<p>◆サクセスフル・ラーナーズの育成</p> <p>社会科の学習は、子どもたちの視野を広げ、時間と場所に関する知識を増やし、世界を新しい方法で見ること挑戦する。子どもたちは、さまざまな種類の情報源から情報を入手して利用し、自分の結論を得るために証拠や議論について批判的に考えることを学ぶ。そして、議論や討論の中でそれらを正当化することを学ぶ。また、社会科の学習は、読み書きや計算能力の向上にも大きく貢献する。</p>
<p>◆自信に満ちた個人の育成</p> <p>子どもや若者の文化的背景がどのようなものであっても、社会科の学習を通じて、自分のアイデンティティをより深く理解することができる。自分の環境、自分のコミュニティや国の過去と現在について学ぶことで、スコットランドを形成してきた政治的・社会的変化についての理解を深めることができる。また、自分の価値観を確立するためのサポートを受け、社会的、政治的、歴史的、環境的な問題に対する自分のスタンスを他者に伝えるような自信を身につける必要がある。</p>
<p>◆責任ある市民の育成</p> <p>子どもや若者は、社会科を通じて、歴史的、地理的、社会的、経済的、政治的な知識や理解の枠組みを徐々に構築していく。他の時代、他の場所にある社会の価値観、信念、文化について学ぶことで、不寛容や偏見に疑問を持ち、他の人々を尊重する姿勢を身につけることができる。個人や社会が直面している倫理的ジレンマを探求することは、学習の重要な特徴である。社会科での学習の最も重要な成果の一つは、政治的、経済的、社会的、文化的な生活に責任を持って参加するという約束である。</p>
<p>◆効果的な貢献者の育成</p> <p>個人でもグループでも、調査的、創造的、批判的な思考を通して知識と理解を深めることで、子どもや若者は人生や仕事に重要な特性を身につけることができる。企業を刺激し、ビジネスに影響を与える概念を学び、応用することで、持続可能な世界経済に対するスコットランドの貢献を理解することができる。また、市民社会への積極的な参加者として、援助活動や環境プロジェクト、ボランティア活動などを通じて、社会の福利にどのように貢献できるかを考えることができる。</p>

(3) 学習を組織化する4つのコンテキスト

スコットランドのカリキュラムとは、幼少期の学習や保育から、学校やそれ以降に至るまで、子どもや若者のために計画されたすべてのこと、総体と定義されている。そしてこの総体は、表4に示す4つのコンテキストによって学習者にたいする教育計画として設計される際のコンテキストとは、資質・能力の育成を図る学習活動を編成するときの軸となるものである¹²⁾。

表4 学習活動を編成する際の4つのコンテキスト

<input type="checkbox"/> 自己実現の機会 <input type="checkbox"/> 学際的な学習 <input type="checkbox"/> コミュニティとしての学校の理念と生活 <input type="checkbox"/> カリキュラム領域と教科（科目）
--

(4) カリキュラム構成のオーガナイザー

カリキュラムエリアの1つとしての社会科の15年間のカリキュラムを編成するにあたっては、オーガナイザーと呼ばれるものが育成を目指す資質・能力を設定していく際の軸として使われる¹³⁾。社会科のオーガナイザーとして示されているものは、表5に示す3つのものであり、その役割については次のように説明されている。

表5 社会科を構成するための3つのオーガナイザー

<input type="checkbox"/> 人物、過去の出来事、社会 <input type="checkbox"/> 人、場所、環境 <input type="checkbox"/> 社会、経済、ビジネスにおける人々
<p>これらのオーガナイザーは、それぞれの社会科の教科目をもたらす特別な教育的貢献を認識するとともに、学校や学習者が所属する地域の文脈を反映させることを可能にする。教師はこの枠組みを利用して、子供や若者に教科の境界を越えてつながりを持たせることで、効果的な学際的作業の機会を提供する。教師は、オーガナイザーに制約されると感じることなく、学習を向上させるために、カリキュラム領域内および領域間で計画を立てる機会を模索する必要があります。オーガナイザーは、カリキュラム作成者自身や複数の作成者間で一貫した学習プログラムを計画することを支援する。</p>

(5) 社会科のカリキュラムのベンチマーク

表6 社会科のベンチマーク（一部）

Scotland's Curriculum for Excellence	Experience and Outcome	Social Studies	Early Level	1 st Level	2 nd Level	3 rd Level	4 th level
人物、過去の出来事、社会	SOC 0-01a	SOC 1-02a	過去について知るためには、さまざまな種類の証拠が役立つことを知っています。	証拠の信頼度には差があることを理解し、過去を学ぶ際に活用できる。	過去の出来事を探るために、一次資料と二次資料を選択して使うことができる。	歴史的な時代に関する知識を使って証拠を解釈し、情報に基づいた見解を示すことができる。	議論の流れを維持するために、相反する証拠を評価することができる。 SOC 4-01a
			自分の人生において重要な人物や特別な出来事に関連するアイテムやイメージを探することで、過去の個人的なつながりを作ることができます。	私は、場所を探査し、遺物を調査し、それらを時系列に配置することで、スコットランドの歴史を記憶し、保存する方法について意見を高めることができました。	様々な時代の歴史的証拠を解釈して、スコットランドの遺産のイメージを構築し、年代感覚を養うことができます。	現在の研究と過去の研究を結びつけ、人や出来事がスコットランドの国の発展にどのように貢献したかについて理解を示すことができます。	イギリス、ヨーロッパ、またはグローバルな市民としての自分の遺産とアイデンティティの感覚を養い、他者の遺産とアイデンティティを尊重することの重要性について議論を提議することができます。
				地域の歴史的に重要な場所や人物の物語を、証拠を用いて再現することができます。	スコットランドの歴史的テーマを調べ、過去の出来事や個人・グループの行動がどのようにスコットランドの社会を形成してきたかを発見することができます。	過去にスコットランド以外の国から来た人々がこの地に定住した理由を説明し、彼らがスコットランドの生活や文化に与えた影響を議論することができます。	
			昔の人々がどのように生活していたのかを探り、想像力を働かせて、自分や周りの人々の生活との違いを表現してきました。	歴史的な証拠や歴史的な設定を再現する経験を利用して、昔の人々の日常生活の側面を自分の生活と比較することができます。	過去の社会と自分の国の社会を比較対照し、共通点や相違点についての議論に貢献することができます。	スコットランドをヨーロッパやその他の地域の社会と比較することで、過去の人々のライフスタイル、価値観、態度の類似点と相違点を説明できる。 SOC 3-04a	過去の社会で不平等を経験したグループを研究することで、不平等の理由を説明し、グループや個人がどのように対処したかを評価することができます。 SOC 4-04a
						過去に起きた世界的信念体系の対立の主な特徴を説明することができ、そのような対立が当時およびその後の社会にもたらした結果について、情報に基づいた見解を示すことができます。 SOC 4-04a	
						過去に起きた社会的、政治的、経済的な大規模な変化を説明でき、人々の生活に与えた影響を評価できる。	過去に起きた世界的信念体系の対立の主な特徴を説明することができ、そのような対立が当時およびその後の社会にもたらした結果について、情報に基づいた見解を示すことができます。 SOC 4-05a
						スコットランドの過去に産業界で起きた変化を評価し、その影響について議論することができます。 SOC 4-05b	
						私は過去に行われた文化交流を調査し、関係する社会に与えた影響を分析することができます。 SOC 4-05c	

3つのオーガナイザーに基づき、3歳から18歳までの15年間で5つの段階的レベルに分けて編成した、社会科というカリキュラムエリアが育成を目指す資質・能力は、ベンチマークと呼ばれている。表6は、3つのオーガナイザーの1つである「人物、過去の出来事、社会」の領域で育成を目指す資質・能力として示されているベンチマークの一部を示したものである¹⁴⁾。学年レベルが上がるにつれて、左側から右側へと資質・能力が向上していくことが目指されている。なお、年齢が低い段階においては該当する資質・能力が設定されていない領域もある。

このベンチマークとして示された育成を目指す資質・能力をもとに、各学校等は、カリキュラムエリアとしての社会科の具体的な年間カリキュラムや学校カリキュラムを編成することになる。その際には、編成した内容をどのようなサブジェクトとして構成し、具体的なものとして子どもに提示することになると考えられる。

(6) 評価

カリキュラム全体を通じた評価の観点は「知識・理解 (knowledge and understanding)」「スキル (skill)」「人としての特性と能力 (attributes and capabilities)」という3つのものが示されている。カリキュラムレベルとしての社会科は、先に表6で示したカリキュラム編成の基準であるベンチマークをもとに評価を行うことが求められている。評価方法は、パフォーマンス評価を中心に、教科横断的な手法を含め、多様なものが示されている。評価の観点や評価方法については、以下の表7のようなことが方針として示され、具体的な評価事例についても示されている¹⁵⁾。

なお、スコットランドでは、イングランドと類似の各学習レベルや学校卒業程度の学力を認定するような統一試験が行われている。今回は具体的な試験問題までは入手できていないが、試験問題からどのような資質・能力を評価しようとしているのかを具体的に把握することは可能である。

表7 カリキュラムエリアとしての社会科における評価

◆評価のポイント

人間、過去の出来事、社会、場所、環境、経済、ビジネスについての知識、理解、スキル

◆評価の方法

日常の授業での学習活動から見取る

子どもや若者が説明や記録をしたり、資料を探索して分析したり、情報を解釈して表示したり、仲間や大人と話し合ったり、議論したり、調査を行ったり、自分の考えを口頭や書面、マルチメディア形式で発表したりする中で、証拠を収集する。

評価のための課題（レポートや発表成果物など）

さまざまな証拠を使用し、その妥当性と信頼性を評価し、日常生活や仕事でこれらを適用するスキルがどれだけ伸びたかを評価する。そこには、自分の知識と理解を使って証拠を解釈し、情報に基づいた見解を提示し、議論を継続できるようになるまでの評価が含まれる。

◆スキルの向上の例

意思決定プロセスに参加することの重要性を認識しているか？

<input type="checkbox"/> ローカル、ナショナル、グローバルな問題に関する議論に貢献するための準備がどの程度できているか。 ◆ 難しい概念の効果的適用（経済的、地理的、歴史的、政治的、社会的な幅広い文脈において） <input type="checkbox"/> 問題の複雑さを理解する能力が高まり、成熟度と共感性が増していること <input type="checkbox"/> 洗練された見解 <input type="checkbox"/> 慎重に検討された証拠とソースを参照して、これらをサポートするスキル <input type="checkbox"/> スコットランドの歴史などについての理解の深さを示すために、学習内容をまとめることができる。 ◆ 社会科以外のカリキュラムエリアや、学校外での学習機会とのリンク <input type="checkbox"/> 遠足、地元や国の様々な遺産への訪問 <input type="checkbox"/> コミュニティのメンバーとの会合 <input type="checkbox"/> 持続可能性や企業などの社会問題に対する認識がどれだけ深まったか

5 他教科・領域等における教育目標・教育内容

スコットランドのカリキュラムが育成を目指す4つの資質・能力の中で、日本の社会科・公民科教育が目標とする民主主義社会の主権者としての資質・能力、市民的資質（シティズンシップ）に最も内容的に近いものがどれであるかといえば、それは責任ある市民の育成ということになるだろう。スコットランドのカリキュラムでは、この責任ある市民の育成についても、他の資質・能力と同様、8つすべてのカリキュラムエリアにおいて、その内容的特性に応じて育成を図ることになっている。表8は、各カリキュラムエリアで育成を目指す責任ある市民としての資質・能力を示したものである¹⁶⁾。

表8 各カリキュラムエリアで育成を目指す責任ある市民としての資質・能力

<p>1. Expressive arts 表現芸術</p> <p>表現芸術は、若者が難しい倫理的問題を探求することを可能にし、個人的・社会的問題への反応を表現する方法を提供することで、若者が立場や見解を問い、発展させるのを助ける。子供と若者は、スコットランドや他の社会における文化、芸術、遺産の重要性を探求し、異なる社会の文化的価値と業績について理解を深めることができる。このようにして、文化的アイデンティティに対する洞察と経験を深め、国家のアイデンティティにおける芸術の重要性を認識することができる。</p>
<p>2. Health and wellbeing 健康とウェルビーイング</p> <p>子供と若者は、他人を尊重し、大切にすることを学び、その信念と感情への理解を深める必要がある。これは、好ましい人間関係を築き、平等と公平を促進し、差別に対抗するのに役立つ。健康的な食事、活動、好ましい人間関係、健康へのリスクについて若者の認識を深めることは、子育てを含む将来の生活にとって重要な基礎を築くことになる。子供と若者は、幼い頃から、自分の行動と決定が他人からどのような影響を受け、また他人にどのような影響を及ぼすかについて理解を深め、他人や環境に良い影響を与えるような行動をとることがいかに重要であるかを認識することができる。</p>
<p>3. Languages 言語</p> <p>子どもや若者は、自分の言語能力を発達させながら、自分の考えや立場を振り返り、発展させることを学ぶ。自分の考えや気持ちを話したり書いたりして伝える練習をし、他の人の考えや気持ちを考えることを学ぶ。議</p>

論に参加し、対立を解決する手助けをし、決定や行動に影響を与える役割を果たすことを学ぶことができる。自国語、そして徐々に他の言語での様々な読書を通して、若者は世界に対する視野を広げ、自分の意見を展開し、難しい決断を下すことができるようになる。他言語の学習は、積極的な国際市民としての重要な要素である。他言語の学習を通して、若者は異文化への理解を深め、先入観や固定観念を再考することが求められる。

4. Mathematics 数学

他のカリキュラムエリアで数学を応用することは、例えば持続可能性の問題などに関する知識や理解を子どもや若者が深めるのに役立つ。数学は、子どもたちが十分な情報を得た上で意思決定を行うために重要な役割を果たすことができる。理解を深めることで、数値情報を適切に解釈し、それを使って結論を出したり、リスクを評価したり、根拠のある評価をしたりすることができるようになる。

5. Religious and moral education 宗教的・道徳的教育

宗教と道徳の教育を通して、子供と若者は、自分とは異なる信仰や信念を持つ人々、また宗教とは無関係に生きる姿勢をとる人々への理解と尊敬を深めるよう奨励される。安全な環境の中で道徳的、倫理的な問題を考えることによって、子どもたちは善悪について道徳的、倫理的な判断をする能力を養うことができる。そして、他者や私たちの住む世界に配慮して行動することを学ぶ。

6. Sciences 理科

子どもたちは、科学がダイナミックで創造的な人間のプロセスであり、国内外を問わず人類の文化の発展に大きく寄与していることを理解するようになるべきである。科学と技術の発展のスピードとその影響が、私たちの社会の幸福に多大な影響を与えることを認識することができる。科学的努力の指針となる価値観、すなわち、生物と環境の尊重、証拠と他者の意見の尊重、データの収集と提示における誠実さ、新しい考えに対する寛容さは、責任ある市民生活の基礎となるものである。

7. Social studies 社会科

子どもや若者は、社会科を通じて、歴史的、地理的、社会的、経済的、政治的な知識や理解の枠組みを徐々に構築していく。他の時代、他の場所にある社会の価値観、信念、文化について学ぶことで、不寛容や偏見に疑問を持ち、他の人々を尊重する姿勢を身につけることができる。個人や社会が直面している倫理的ジレンマを探求することは、学習の重要な特徴である。社会科での学習の最も重要な成果の一つは、政治的、経済的、社会的、文化的な生活に責任を持って参加するという約束である。

8. Technologies テクノロジー

子どもたちは、社会を変化させ、影響を与えるテクノロジーの役割を理解することで、環境、持続可能な開発、倫理に関連する問題にますます取り組むことができるようになる。そして、個人の責任感を育むことができる。重要なのは、子どもたちが、製品やサービスの利点と影響を理解し、理性的で倫理的な選択ができる、情報通の消費者になれることである。

表4を見ても分かるように、各カリキュラムエリアの内容的特性をふまえながら、責任ある市民としての資質・能力の育成をカリキュラム全体で担っている。このことから、教科の内容をふまえたコンテンツをベースにしたカリキュラム設計ではなく、資質・能力としてのコンピテンシーをベースにしたカリキュラム設計をスコットランドが行っていることが把握できる。

6 特記事項：子ども・若者のために展開されている政治的・社会的制度や取り組み

学校外の団体との連携や、学校以外（地域社会や NPO 等）で行われる活動などで、教育目標に合致するものを積極的にカリキュラムに取り入れ、評価の対象にすることが提唱されている。

7 日本への示唆

スコットランドのカリキュラムは、資質・能力の育成を目指すコンピテンシーベースの教育課程編成の考え方を色濃く示している。教科（サブジェクト）という枠は残しながらも、実質的な教科領域はカリキュラムエリアという名称で設定し、それぞれのカリキュラムエリアごとに 15 年間で育成をはかる資質・能力を 5 つのレベルに分けて示している。各教科の具体的な学習内容（コンテンツ）は、示されたベンチマークを規準として、学校目標や地域・学習者の実態などを勘案し、各学校が編成することになっている（教育課程編成の基本的な考え方）。

また、カリキュラム全体で育成する 4 つの資質・能力の 1 つとして「責任ある市民」が設定されており、社会科も含めた全てのカリキュラムエリアが市民の育成に責任を負っている（広義の市民力）。

また、学習者の成長と教育改善のための教育評価という理念に基づく具体的な評価方法の提案がなされており、学習者の特質をふまえた教育内容や教育方法・学習活動の編成が目指されている（個別最適化）。

以上のような特色を持つスコットランドのカリキュラムは、資質・能力の育成を目指すカリキュラム編成の 1 つの在り方を示している。ナショナルカリキュラムとして具体的に示すのは、カリキュラム全体並びに各カリキュラムエリアで 15 年間かけて育成を目指す資質・能力の指標としてのベンチマークであり、そのベンチマークを参考にどのようにして具体的な学校カリキュラムや学年カリキュラムを編制するのかを示した、カリキュラム編制の方法を具体的に教師に伝えるための方策が書かれた文書である。各学校では、資質・能力の指標（ベンチマーク）を規準として、地域や学校、学習者の実情をふまえて適切なコンテンツと学習活動を構成し、カリキュラムとして編制することになる。そして、そのようなカリキュラムで育成された学力は、統一テストによって評価され、間接的には編制されたカリキュラム自体が評価されることにもつながると言っても良い。

本研究プロジェクトのテーマである 18 歳市民力について、スコットランドカリキュラムがどのように考えているかという点についての具体的な内容を示すことは難しいが、少なくともスコットランドで生活する市民に求められる資質・能力は、各カリキュラムエリアである程度具体的にまとめられている資質・能力としてのベンチマークとして示されている。スコットランドのカリキュラムが 3 歳から 18 歳までに 15 年間の教育課程として編制されていることからすれば、これらのベンチマークに示されている資質・能力の全てが、スコットランドが育成を目指している 18 歳市民力といえるのではないかと。

スコットランドのカリキュラムは、18 歳市民力の 1 つの考え方を資質・能力として具体的に示すと共に、その資質・能力の育成をはかるカリキュラム編制の在り方を、日本とは異なる形で示しているといえるのではないかと。

今回の研究では昨今の事情から現地調査などが難しく、スコットランド政府がインターネ

ット上に示しているナショナルカリキュラムに関する基本文献から把握できる範囲での分析にとどまっている。具体的には、現地の具体的な学校カリキュラムの事例を対象とした実践的な分析が必要であろう。そのような研究から、18歳市民力育成のためのカリキュラム編制に関する、より具体的で実践的な成果と課題が見えてくるはずである。

引用・参考文献

- 1) "Scotland Act 1998"<<https://www.legislation.gov.uk/ukpga/1998/46/contents>> 最終アクセス 2023.2.28
- 2) "Scottish Elections (Franchise and Representation) Bill"<<https://www.parliament.scot/bills-and-laws/bills/scottish-elections-franchise-and-representation-bill>> 最終アクセス 2023. 2. 28. 那須俊貴(2020)「主要国における被選挙権年齢(資料)」国立国会図書館調査及び立法考査局『レファレンス』833,pp.57-74.
- 3) 国立国会図書館調査および立法考査局(2008)『主要国の各種法定年齢』
- 4) 在エディンバラ日本総領事館「スコットランドの教育制度」<https://www.edinburgh.uk.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000264.html>最終アクセス 2023.2.28. Education Scotland "Scottish Education System" <<https://education.gov.scot/education-scotland/scottish-education-system/>>
- 5) Education Scotland "Broad general education" <<https://education.gov.scot/education-scotland/scottish-education-system/broad-general-education/>>
- 6) *ibid.*
- 7) The Scottish Government "a curriculum for excellence building the curriculum 3 a framework for learning and teaching" <<https://education.gov.scot/Documents/btc3.pdf>> 最終アクセス 2023.2.28.
- 8) Scottish Qualifications Authority(SQA) "National Qualifications Subjects" <<https://www.sqa.org.uk/sqa/45777.html>>
- 9) The Scottish Government "a curriculum for excellence building the curriculum 1 the contribution of curriculum areas" <<https://education.gov.scot/Documents/btc1.pdf>> 最終アクセス 2023.2.28.
- 10) *ibid.*
- 11) *ibid.*
- 12) *ibid.*
- 13) *ibid.* 7)
- 14) Education Scotland(2017) "Benchmarks Social Studies March 2017" <<https://education.gov.scot/nih/Documents/SocialStudiesBenchmarksWord.docx>> 最終アクセス 2023.2.28.
- 15) The Scottish Government "curriculum for excellence building the curriculum 5 a framework for assessment" <<https://www.education.gov.scot/Documents/btc5-framework.pdf>> 最終アクセス 2023.2.28.
- 16) *ibid.*9)